

# オオキトンボの里づくりプロジェクト

活動地域  愛媛県

つづける助成

3年目

調査研究

現地調査日数 **50日**

オオキトンボ観察会参加者数 **170人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **70%**



オオキトンボの産卵観察会

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

本種発生数の減少は、ため池への水入れの遅れ、他種のトンボの増加、大雨による卵の流出など、様々な要因が考えられるが検証は難しく、経年の調査データの蓄積が必要。

### ■ 工夫した点

「オオキくん通信」を年間10回、2,000部発行し、北条地域の7小学校に配布。本種の今とともに、里地の旬の生きものを紹介し、地域の自然への関心を高めている。

## 課題

松山市北条地域には希少種・オオキトンボが生息するため池が点在するが、住民にほとんど存在が知られていない。一方でため池改修工事が進行中で、早急に保全の提案が必要。

## 目標

ため池の水管理等によって生じる環境変化と本種の生活史との関係を調査により解明し、地域の関心を高め、住民、学校、行政、専門家などとの協働による保全につなげる。

## 活動内容と成果

オオキトンボの中心的な生息地であるM池における発消長調査を継続し、本年は昨年の約2割と発生頭数が減少したことが判明した。3年間の調査データを基に、本種が生息するため池の条件を抽出・考察し、その環境を創出するため池の管理内容とタイミングを提言にまとめた。M池管理者に説明を行ったところ、減少要因の一つが水管理との認識を共有でき、次年度は提言に沿った管理を実施する方針となった。「風早トンボサミット2019」の開催、地元まつりへの出展などにおいて、保全の必要性を発信し、認知度の向上を図った。



県内外の高校生と現地調査



地元小学校3年生の授業でヤゴの観察中

## 全助成期間の活動を振り返って

複数のため池の生息状況調査、発消長調査など、3年間の多角的な調査から、水抜きなどため池の年間管理が創出する環境が本種の生活史に合致していることを明らかにし、ため池管理への提言をまとめた。本種の観察が小学校の授業として定着するなど、学校との連携により、地域の協力を得やすい状況になってきた。「風早トンボサミット」を開催し、各地の取組みを通して、トンボの保全が地域の魅力発信につながることを共有した。

〒790-0827  
愛媛県松山市鉄砲町1-7  
電話：089-992-9152  
E-mail：info@morimichi.org  
HP：http://morimichi.org



## 今後の展望

本種発生のコアであるM池においては、管理者に理解を深めてもらい、提言に沿ったため池管理を実施する方針となったが、地域全体で本種の保全を進めるために、他のため池についても同様に働きかけ、横への展開を進めていく。観察のノウハウやデータを、生物多様性や環境教育のコンテンツとして活用・発信する方針である。また、地域の活性化協議会との連携も深まったため、エコツアーのコンテンツなどとして企画を実現していく。